

## 遠山昇司展 収蔵庫の鳥たち

会期 | 2025年10月5日（日）—12月14日（日）

会場 | 熊本市現代美術館 ギャラリーⅠ・Ⅱ

平素から、当館の展覧会活動に対して、ご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび熊本市現代美術館では「遠山昇司展 収蔵庫の鳥たち」を開催いたします。

熊本県八代市出身の映画監督・遠山昇司（とおやま しょうじ）は、これまで地域にフォーカスした劇映画を制作すると同時に、アートプロジェクトや舞台作品、芸術祭の統括ディレクターなど多彩な活動を続けてきました。本展は、美術館に眠る収蔵品から、自身の映画やアートプロジェクトまでを、「鳥」を切り口として、遠山が新たな視点で再構成するインスタレーション形式の個展となります。主な出品作として、海の上の小学校を郵便局に見立て、手紙の交換をするアートプロジェクト「赤崎水曜日郵便局」、豪雨災害後の球磨川を撮った映画「あの子の夢を水に流して」などの代表作から、シベリア抑留体験を絵画にした画家・宮崎静夫の描く鳥にスポットを当てた新作インスタレーション「鶴をひらく」、及び展覧会タイトルでもある「収蔵庫の鳥たち」などを展示します。併せて、熊本県立小国高等学校の生徒の皆さんと共同制作した映像作品「しろい息」も公開いたします。

つきましては、ご多忙の折とは存じますが、本展についてご紹介いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 開催概要

#### 遠山昇司展 収蔵庫の鳥たち

会 期：2025年10月5日（日）—12月14日（日）

会 場：熊本市現代美術館 ギャラリーⅠ・Ⅱ

開館時間：10:00—20:00（入場は19:30まで） 火曜休館

観覧料金：一般 ¥1,300 [¥1,100] /シニア（65歳以上） ¥1,000 [¥800] /学生 ¥800 [¥600]

中学生以下無料

\* 各種障害者手帳をご提示の方とその付き添い1名は無料

\*\* [ ] は前売、20名以上の団体、電車・バス1日乗車券等を提示の料金

\*\*\* 前売券の販売は10月4日（土）まで

※10月12日（日）は開館記念日のため入場無料

主 催：熊本市現代美術館（熊本市・公益財団法人熊本市美術文化振興財団） 熊本日日新聞社

助 成：一般財団法人 地域創造、西日本シティ財団、  
令和7年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業

後 援：熊本県／熊本県教育委員会／熊本市教育委員会／熊本県文化協会／熊本県美術家連盟／熊本国際  
観光コンベンション協会／RKK 熊本放送／熊本朝日放送／KKT くまもと県民テレビ／TKU テレ  
ビ熊本／J:COM 熊本／エフエム熊本／FM791

協 力：NTT 西日本、株式会社パルコ、熊本県博物館ネットワークセンター、熊本県立小国高等学校、  
熊本中央高等学校 生物探求部、坂本善三美術館、つなぎ美術館



●本展のキーポイント

映画監督・遠山昇司が世界を「鳥（トリ）ミング」する

美術館に眠る収蔵品から、自身の過去の映画作品やアートプロジェクトまでを、遠山昇司が「鳥」を切り口として、新たな視点で再構成するインスタレーション形式の個展。



① 映画監督がつくった『展覧会』／ミュージアムと収蔵庫をめぐって

遠山の初の個展となる本展は、美術館に眠る収蔵品から、自身の過去の映画作品やアートプロジェクトまでを、「鳥」を切り口として、新たな視点で再構成するインスタレーション形式の展覧会です。

遠山はこれまで、「手紙」や「公衆電話」のような、オールドなメディアを扱う作品を制作してきましたが、「ミュージアム」もまた記憶や情報を伝えるメディアであることに着目し、本展では展覧会そのものを、人々の記憶の「収蔵庫」に見立てることにしました。ミュージアムの収蔵庫は、物理的な限界を迎えていることも、近年問題になっています。私たちはこれから、何を記憶し、未来へと継承していくのか。本展を通して、遠山は問いかけます。



熊本県博物館ネットワークセンターの鳥類標本（参考写真）

② 戦後 80 年ーシベリア抑留画家の思いを若手映画監督が読み解く

熊本県下の美術館で多数収蔵される、阿蘇郡小国町出身の画家・宮崎静夫が自身のシベリア抑留体験を描いた「死者のために」シリーズには、時に死の象徴として、また、シベリアと故郷を自由に行き来する存在として、鳥のモチーフが描かれます。そこに注目した遠山は、宮崎が作品を通して伝えようとした思いを読み解き、新たに撮影した久子夫人のインタビュー映像を交えながら、インスタレーション「鶴をひらく」として紹介します。

我が国は今年戦後 80 年を迎えますが、現在も戦争が続くロシアからは、いまでも変わらず、多くの鶴が九州へと飛来しています。宮崎の作品を展示する空間の奥には、私たちが平和を願って折り続けてきた無数の折り鶴を、ただの 1 枚の紙へと戻す作業が行われます。一人一人が折られた鶴をひらきながら、宮崎が願った戦争のない世界へと思いを馳せて欲しいと遠山は語ります。



宮崎静夫《道標》1997 年  
つなぎ美術館蔵

③ 小国町と熊本市でアートがはじまるー小国高校生が参加する映像作品

遠山は、本展と同時期に阿蘇郡小国町で開催される地域をフィールドとした芸術祭「小さな国 十月」（10月4日～11月3日）の総合ディレクターも務めています。遠山は「アートと学びの祭典」を目指す同祭の準備を通じて、小国に残る歴史や文化を知る中で、町の教育の重要な拠点である小国高校の生徒たちと共同で、2月の早朝に「しろい息をはく」新作映像の撮影を実施しました。遠山は作品制作にあたる上でのメッセージを下記のように語っています。



小国高等学校での「しろい息」撮影風景

はく息が白いということは、その体が温かいということ。  
生きているということ。空中に白く漂う命の証。または奇跡。

「しろい息」は、今を生きる生命の象徴です。その尊さを三好達治の詩「大阿蘇」とともに体感してみてください。



## 遠山昇司 Shoji Toyama

映画監督 | アートディレクター

1984年 熊本県八代市生まれ、東京在住。

早稲田大学大学院国際情報通信研究科修士課程修了

<https://www.toyama-shoji.com/>

主な映画作品に、熊本・天草を舞台にした『NOT LONG, AT NIGHT -夜はながくない-』（2013年公開／第25回東京国際映画祭〈日本映画・ある視点部門〉出品作品）、熊本豪雨を受けて制作された『あの子の夢を水に流して』（2023年／第12回パウネアーリオ・コンポリウー国際映画祭 最優秀監督賞・最優秀演技賞）等がある。同時に、映画だけでなく、多様な分野で活動し、アートプロジェクト『赤崎水曜日郵便局』（2013年／2014年グッドデザイン賞受賞）では、熊本県津奈木町にある海に浮かぶ旧赤崎小学校を再利用したプロジェクトは全国的に話題となり、多数のテレビ番組で特集され、書籍化された。また、国内屈指の規模をほこる『さいたま国際芸術祭2020』では統括ディレクターを務めた。

本展撮影：森賢一（グラフ）「鶴をひらく」「しろい息」

会場構成：岩田正輝（藤本壮介建築設計事務所）

### その他の主な出品作品



#### アートプロジェクト「赤崎水曜日郵便局」

あなたの水曜日を送ると、誰かの水曜日が届きます

2013年に熊本県津奈木町で実施されたアートプロジェクト。海の上に立つ旧・赤崎小学校を水曜日だけ開局する郵便局に見立て「葦北郡津奈木町福浜165番地その先」の住所に、水曜日の思い出を書いて送ると、見知らぬ誰かの手紙が交換されて送られてくるプロジェクト。遠山は全体のディレクションと水曜日郵便局の局長を務めた。また、2016年には宮城県東松島市では「鮫ヶ浦水曜日郵便局」も開局した。



#### アートプロジェクト「ポイントホープ」

物語の始まりは「029-284-1900」という電話番号

2017年に水戸市で実施された遠山ディレクションのアートプロジェクト。国内の公衆電話から指定された電話番号（029-284-1900）に電話をかけると、2人の女性の声で序章が語られる。参加費を支払うと、地図と500円分のオリジナルテレホンカードが届き、参加者は地図に指定された水戸市内の公衆電話4カ所を回って電話をかけ、物語をたどった。



**映画「NOT LONG, AT NIGHT 夜は長くない」**  
**熊本・天草を舞台にしたロードムービー**

ある日、一人の女性が34年間貯め続けてきた様々なものを捨て、車を盗み旅に出た。海へと向かう旅の中で、彼女は多くの出会いと別れを繰り返していく。

第25回東京国際映画祭「日本映画・ある視点」部門出品作品。

監督・脚本：遠山昇司 撮影：森賢一 出演：玉井夕海、和田周、米村亮太郎ほか  
制作：2012年（公開：2013年） 時間：94分



**映画「あの子の夢を水に流して」**  
**豪雨災害後の球磨川を舞台に描く「生命」をめぐる物語**

生まれて間もない息子を亡くして失意の底にいる37歳の瑞波は、故郷の八代に10年ぶりに帰省する。幼なじみと再会した彼女は、豪雨災害の傷跡が残る球磨川をめぐる。川を前に、災害当時それぞれが見たものを語りあう3人は、やがて不思議な現象に遭遇する。

第12回バウネアリーオ・コンボリウー国際映画祭 最優秀監督賞・最優秀演技賞

監督・脚本：遠山昇司 撮影：森賢一 出演：内田慈、玉置怜央、中原丈雄ほか  
制作：2022年（公開：2023年） 時間：70分

## 展覧会関連イベント

### オープニングトーク

「収蔵庫の鳥たち」展ほか、小国町で開催中のプロジェクトについて語ります。

日 時：10月5日（日）13:00～14:30 各30分程度

出 演：遠山昇司（本展作家）、「小さな国」プロジェクトメンバーほか

場 所：ホームギャラリー ※「小さな国」特製スープもあわせてお楽しみください。

定 員：80名（先着順）、参加無料

### 小さな水曜日郵便局

会期中に「小さな水曜日郵便局」が美術館の中に開局します。あなたの水曜日の思い出を誰かと交換してみましょう。

場 所：熊本市現代美術館アートラボマーケット ※切手代等の参加費が必要です

### アーティストトーク①「遠山昇司×日比野克彦（当館館長）」

日 時：10月12日（日）14:00～15:00

場 所：展覧会場内をツアー形式で巡ります

定 員：40名程度 参加無料 ※直接会場入口に集合（予約不要）

10月12日（日）は  
開館記念日のため観覧無料

### アーティストトーク②「遠山昇司×片岡真実（森美術館館長/国立アトリサーチセンター センター長）」

本展や地域芸術祭のあり方について語ります

日 時：11月15日（土）15:00～16:00

場 所：ホームギャラリー

定 員：80名（先着順）、参加無料

※展覧会イベントは変更になる場合があります。そのほか、会期中に学芸員によるギャラリートークや、遠山昇司映画作品の特集上映、小国町をめぐるバスツアー等も予定されています。最新情報は熊本市現代美術館までお問合せいただくか、ホームページでご確認ください。

## 関連開催

### 芸術祭「小さな国 十月」

阿蘇郡小国町を舞台に遠山昇司がディレクターを務めるアートと学びの祭典。

秋の山里を本展とぜひあわせてお楽しみください。

会 期：2025年10月4日（土）-11月3日（月祝）

会 場：坂本善三美術館、小国シネ・ホール、小国町内各所

<https://smalllandproject.com/>



### 坂本善三美術館開館30周年記念展「日々。」

会 期：2025年10月4日（土）-11月30日（日）

会 場：坂本善三美術館（熊本県阿蘇郡小国町黒淵 2877 電話：0967-46-5732）ほか

出品作家：藤原雅哉、ワタリドリ計画、若木くるみ、岡山直之とケヤキノタミ、小国のたまり場 with 増野奈古ほか

<https://sakamotozenzo.com/>

## 開会セレモニー

### 内覧及び記者発表

## タイム

### スケジュール

2025年10月5日（日）9:30～（\*9:00～招待者のみ開場）

\*一般公開 10月5日（日）10:00～

9:00 受付開始

9:30 開会セレモニー

※展覧会場入口でのセレモニー終了後、内覧会及び記者発表に移ります

- ・内覧会
- ・記者会場案内（遠山昇司及び担当学芸員によるツアー形式／約60分）
- ・個別取材・撮影タイム（約60分）

\*記者発表および内覧会へご参加予定の方は事前にご一報ください

\*10月3日（金）4日（土）の会場設営中、及び10月6日（月）以降も随時ご取材を受付ますので、どうぞご一報ください。

## 注意事項

- \* 作品保護のため、館内では鉛筆をご利用ください。お持ちでない方には貸出をいたします。（ボールペン・シャープペンシルのご使用はお控えください。インク、先のとがったものによる作品の破損を防ぐためです。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします）
- \* 作品保護のため、お手回り品（リュック等）が壁や作品に触れないよう、ご注意ください。（会場でご使用にならないお荷物はコインロッカーをご利用いただくか、お預かりも出来ますのでお声がけください）
- \* 受付にてお名刺を1枚頂戴いたします。お持ちでない場合は芳名帳へのご記入をお願いします。
- \* 新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力をお願いしております。

**広報用画像**

広報用画像をご希望の方は下記内容をメールでお知らせください。広報担当からご連絡いたします。

- ① 掲載媒体・掲載時期
- ② 希望画像 No.
- ③ ご担当者様のお名前、ご連絡先（メールアドレス等）

**【使用に際しての注意事項】**

- \* 使用目的は、本展のご紹介に限ります。本展終了後の使用は出来ません。
- ご使用後は（掲載、未掲載に関わらず）画像データを削除してください。第三者への譲渡は禁止します。
- \* 作品キャプション・クレジットを明記してください。
- \* トリミング、部分使用、文字等を重ねての使用はできません。
- \* 再放送、転載など2次利用をされる場合には、別途申請いただきますようお願い致します。
- \* 基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で担当までお送りいただきますようお願い致します。
- \* 会期中の会場取材・撮影をご希望の場合は広報担当までご連絡ください。
- \* 掲載紙・誌、同録 DVD 等を一部寄贈してください。（WEB 媒体の場合は URL をお知らせください）

	
<p>1 「遠山昇司展 収蔵庫の鳥たち」</p>	<p>2 「遠山昇司展 収蔵庫の鳥たち」</p>
	
<p>3 アートプロジェクト「赤崎水曜日郵便局」 ディレクター：遠山昇司 2013-16年</p>	<p>4 映画「NOT LONG, AT NIGHT 夜は長くない」 監督：遠山昇司 2012年制作</p>

	
<p>5     <b>アートプロジェクト「ポイントホープ」</b>        ディレクター：遠山昇司 2017-18年        撮影：新津保建秀</p>	<p>6     <b>映画「あの子の夢を水に流して」</b>        監督：遠山昇司 2022年制作</p>
	
<p>7     <b>映像作品「しろい息」</b> 監督：遠山昇司        協力：熊本県立小国高校 2025年</p>	<p>8     <b>遠山昇司監督</b></p>

**お問い合わせ先**

熊本市現代美術館（広報担当：曾瑠新 [そう・うしん] 学芸担当：坂本顕子）  
 〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 TEL：096-278-7500  
 FAX：096-359-7892 HP：www.camk.jp E-mail：gamadas@camk.or.jp



- ・美術館入口（びぶれす熊日会館3階）まで、通町筋電停又はバス停から徒歩1分です。電車通り側歩道から、エスカレーター又はエレベーターをご利用ください。
- ・「びぶれす熊日会館」の駐車場は、数に限りがあります。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

